教育目標：自立　敬愛　精励

用賀中だより

ようがの学び舎　舎訓　責任 信頼　誇り
～生徒が主人公である学校、地域と共に歩む学校～

学校だより　９月号
令和６年９月吉日
ようがの学び舎
世田谷区立用賀中学校
校長　毛利　慎治

二学期のスタートに向けて「1440 分の使い方」

44 日間の夏休みが終わり、生徒全員が元気に揃い、無事に二学期のスタートを迎えられたことを心から嬉しく思います。事故もなく、元気な姿で再会できたことは、この二学期の教育活動に向けて素晴らしい出発点となりました。

皆さんは夏休み前にどんな話をしたか覚えていますか？ その時にお伝えしたのは、自己を客観的に見つめる時間として夏休みを活用してほしいということでした。自分の行動を第三者の視点で振り返り、考えることを「メタ認知」としてお話ししました。夏休み中に、「自分で計画し、自分で考え、行動し、自分で振り返りをする」というサイクルを実践できたでしょうか。

さて、今年の夏はやはりオリンピックが盛り上がりましたね。日本が金メダルをたくさん獲得し、夜遅くまでテレビを見てしまった方も多いでしょう。日本中が盛り上がった期間でしたが、金メダリストに注目が集まりがちな一方で、計画的にトレーニングを重ねたにもかかわらず惜しくも敗れた選手たちの姿も印象的でした。オリンピック選手たちは、コーチと二人三脚で時間を厳密に管理しながら日々の練習に取り組んでいます。今回は、私が夏休み中に読んだ『1440 分の使い方』という本から、オリンピック選手たちの時間管理の方法をご紹介したいと思います。

＜ボート競技 ロンドン大会出場 アメリカ代表選手の時間管理の方法＞

「明日をどんな一日にしたいかは、それを決められるエネルギーと集中力がある時に決めるようにしています。その時に、どんな一日にすべきか、ToDo リストにどう取り組むか、各タスクにどれくらいの時間を割り当てるかといった構想を練ります。そうしておけば、タスクに取り組んでいる最中に何かを判断しなければならないことが減ります。」

＜サッカー女子 アテネ大会 アメリカ代表選手 金メダリストの時間管理の方法＞

「価値あることを成し遂げるためには、一点集中が欠かせません。オリンピックの約半年前からは、金メダルという最終目標につながるかどうかで、すべての行動を判断しました。一日数回、ごくシンプルに『これをやったら、パフォーマンスが向上して金メダルに近づくか？』と問いかけました。この問いかけが、私を正しい方向に導いてくれました。たとえその活動が休養であろうと、より広い視点を得るために少し練習から離れることであろうと、常に目標を意識していたからこそ、その達成に最善の行動を選択できたのです。また、どの判断が正解かが明確になるため、焦点が一層絞り込まれ、自制もしやすくなりました。」

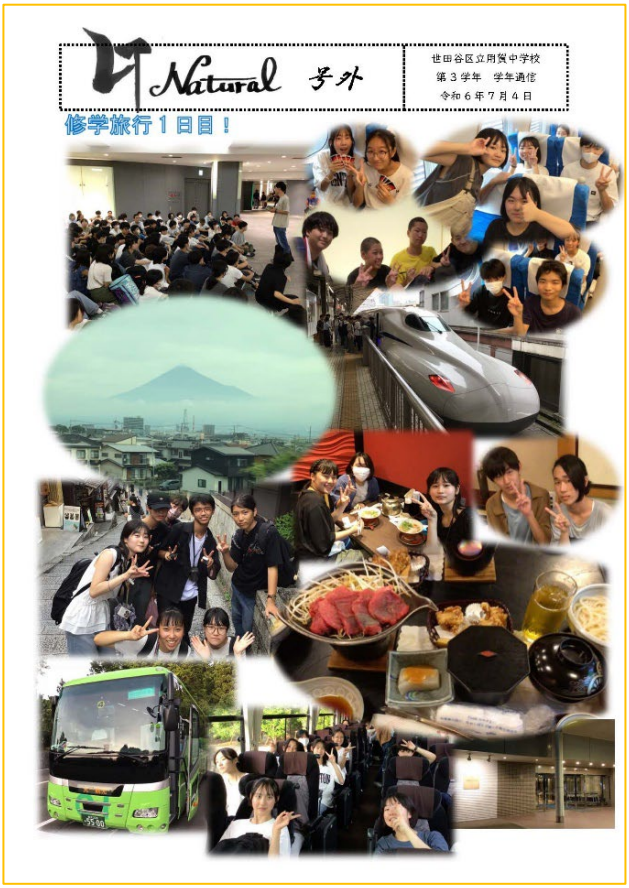
オリンピック選手たちが時間をコントロールして日々の練習に取り組んでいることから、私たちも多くのことを学ぶことができます。私たちも、自分に与えられた時間をどのように使うかをしっかり考え、「自分はこうなりたい」というイメージをもち続けて、二学期の 82 日間を計画的に過ごしましょう。自分の取り組み方や目標について再評価し、新たな一歩を踏み出してみてください。二学期には、合唱コンクールや、１・２年生が中心となって進める生徒会活動や委員会活動など、自分を高めるチャンスがたくさんあります。オリンピック選手たちのように、日々の努力と時間の使い方を大切にし、「自分で計画し、自分で考え、行動し、自分で振り返る」という習慣を身につけるよう、チャレンジしていきましょう。

二学期が皆さんにとって充実した時間となり、共に成長し、輝かしい成果を手に入れるために、教職員一同全力でサポートしていきます。引用: 『1440 分の使い方 成功者たちの時間管理の 15 の秘訣』 ケビン・クルーズ著 パンローディング社

＜お知らせ＞９月より、スクールカウンセラー火曜日の担当として、持田　優子（もちだ　ゆうこ）先生に来ていただきました。木曜日担当は引き続き、平林　小由利（ひらばやし　さゆり）先生です。

7／3～5に、3 年生が修学旅行を行いました。

3 年生が修学旅行で、京都から石川方面への行程でさまざまな見学や体験学習を行いました。
道中でも写真が多く撮られ、学年へはすぐに「号外」が出されるほど、笑顔満載の修学旅行でした。



＜ふりかえり＞　修学旅行で

僕は今回の三日間の修学旅行で学べたことがあります。一日目の京都では、オーバーツーリズムと中国大陸との関係について学ぶことができました。

オーバーツーリズムは今まで、授業やネットで見たり聞いたりしていましたが、実際に京都で見たことはありませんでした。　今まで、僕は京都で生活している人やその家が写真に撮られるなど個人情報のことが問題だと思っていました。ですが実際今回京都で見たのは道路の混雑でした。狭い歩行者の道が外国人観光客によって通れなくなるなどの問題もあることがわかりました。

中国大陸との関係は、あまり京都にはないと思っていました。しかし、京都国立博物館で中国の昔の絵が複数ありました。それらの絵は驚くべきことに定期的に日本に伝わっていた絵であり、そこから中国とは昔からつながりがあったと学びました。

二日目は永平寺から信教の自由が大切だと学びました。永平寺の坐禅体験が終わったあと、寺の中を見学している際、壁に永平寺の宗派の考え方が書かれているものがあったのですが、それには宗教を軸に物事を考えてはならないと書いており、あくまで宗教は一つの考え方にすぎなく、考えは人それぞれであると学べました。

三日目は金沢で需要による経済の発展を学べました。町中の菓子店にあった由来の中に昔の大名が必要としたから今の店が存在すると書いてありました。お金のある者が需要をもとにそのお金を動かすことで街が発展していくのだと理解できました。今後はこれらのことも含めて経済について勉強しようと思いました。

各種研修受講の好機としました。

夏季休業中を、授業を行わない期間を好機と捉え、部活動指導や校務（学校内の業務）の整理、またそれぞれに研究や修養をさらに進める機会としても活用してまいりました。研究や修養は、個々人で申し込むなどして、さらに伸ばしたい力を獲得すべく行ったものと、チーム用賀中として全員で行ったものとがあります。

以下にいくつかを紹介します。

○服務研修・アレルギー対応研修

東京都教育委員会からの情報も活用しながら、都民に信頼される教員、生徒に信頼される先生としてのあり方を再び確認し、標語作成を通してこれから目指していきたい学校の姿や、生徒とのかかわりのあり方を共有しました。また同日に、アレルギー防止や対応についての研修も、役割を決め、実際に動いて行いました。

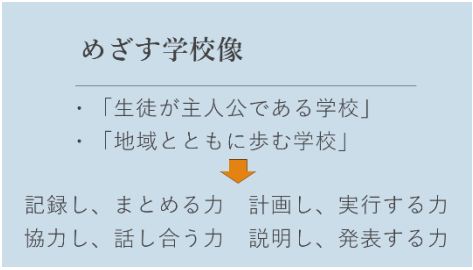
（作品の一例）

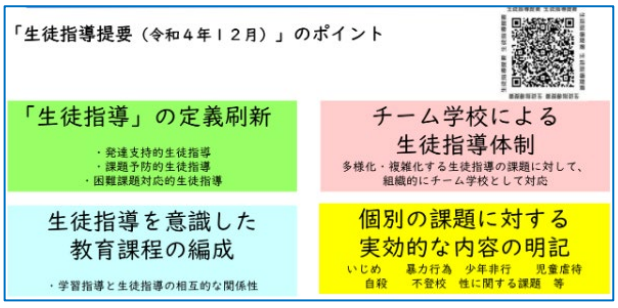
○学び舎研究・研修会

ようがの学び舎３校（京西小学校、用賀小学校、用賀中学校）の教員が本校に集まりました。

教科部会として、教科ごとの「小学校から中学校へ、学年ごとに目指す指導のあり方」を共有し、そのあとに全体会として、学校の近況を報告しあいました。

その後、世田谷区教育委員会　支援教育課の検校　幸雄（けんこう　さちお）指導主事からの講演・演習があり、これからの教育の進め方、児童・生徒との関わり方などについて考え、学び合いました。





○教育相談校内研修会

世田谷ボランティアセンターが運営している、「せたがやチャイルドライン」より、田野　浩美（たの　ひろみ）様、小畑　泉（おばた　いずみ）様を講師としてお呼びして、『チャイルドラインはとは　～聴くということ～』という演題で、ワークショップ形式の演習を行いました。

実際の電話相談を想定して、悩みをもつ子どもはどんなふうに話すだろうか、それを受ける大人がどのように話すと子どもは安心するだろうか、と、考えながら演習を行い、感じたことや考えたことを交流しました。

【研修を受けての感想】

この研修でのロールプレイでの子ども役を行うことで、「話を聞いてもらう側の気持ちの良さ」「自分の思いを言葉にして吐き出す快感」を体験できました。子どもとかかわる大人として、児童生徒の話を聞いてあげる立場としての意識は大切ですので、このような経験は、聴くスキルアップに繋がると思いました。

これまで、さまざま部活動等の成果がありました。

中学生になると部活動等で各種目の大会がより多く行われます。教室の顔とは異なる一面も互いに知り合い、励まし合い、高め合えるようにと願っています。生徒の貸与端末にも、大会等の正式名やそこに向かう過程での精励などを自ら振り返り、言葉にできるようにと送っております。これからも「スポーツや芸術の秋」として活躍の機会があると思います。その際の自己分析や省察として活用が進めばと思っています。

一部を紹介いたします。

男子バレーボール部　世田谷区夏季バレーボール大会第１位、
第２ブロック総合体育大会第１位、
東京都大会第７位

女子バレーボール部　世田谷南地区夏季バレーボール大会第１位、
第２ブロック総合体育大会第2位、
東京都大会出場

陸上部　世田谷区春季大会　入賞多数　（女子１００m、２００m、８００m、リレー、　男子４００m、砲丸投）
世田谷区夏季大会　入賞多数　（女子１００m、リレー、　男子１００m、１５００m、リレー）
地域別競技大会　１００mで第８位。
東京都大会出場（女子１００m、２００m、男子リレー、女子リレー）

男子テニス部　世田谷区中学校新人テニス大会シングルス　第９位　２名
ダブルス　第５位　１組

女子テニス部　世田谷区中学校新人テニス大会シングルス　ﾍﾞｽﾄ32　４名
ダブルス　第５位　１組

吹奏楽部　東京都中学生吹奏楽コンクールＢ組　銀賞

サッカー部　区民体育大会　第２位

【サッカー部の１年生より】

●試合を見た感想

一つ目はＡチームのレベルがすごく高くなったことです。全体の動きが良くてとてもレベルの高いサッカーをしていてすごいと思いました。

二つ目は一人一人がコミュニケーションをとっていた事です。Ｂチームはあまりコミュニケーションが取れていないのですが、Ａチームはコミュニケーションがいっぱい取れていてそこがＢチームとＡチームの差だと思いました。しかも Ａチームはお互いが指示し合える仲間なのでそれがとてもいい事だと思いました。

三つ目は守備の部分です。全員がラインを揃えていてとても安定していました。その他にも相手のロングボールをちゃんと落とさずにトラップしたりヘディングしたりして、とっても良い守備をしていました。

四つ目は攻撃についてです。サイドハーフの選手が幅を取っていて、空いたスペースへ送るボールがとてもよかったと思いました。

五つ目は全体についてです。しっかり全体スライドができていていました。他にも、誰かがミスした時は「ドンマイ」なとのプラスの声かけをしていてとても団結力のあるチームだと思いました。

●大会を通しての振り返り

Ｂチームは初戦で敗退となって悔しい結果になってしまいました。Ｂチームに足りないところは、やっぱり声の部分と技術の部分だと思いました。

これからもしっかりと練習をし、二、三年生の区民大会では優勝したいです。

日頃の努力の成果、大変素晴らしいです！　今後の部活動等でも、自立・敬愛・精励へ！